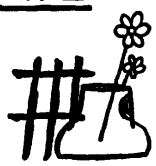
巻頭言



会長就任にあたって

三浦　武雄†

このたび，はからずも多数の会員の皆さま方のご推挙により情報処理学会会長という重責を担うことになりました．私自身，昭和58年5月から60年4月までの2年間副会長の任にありましたので多少なりとも本学会運営の状況を心得ているつもりですが，会員数が3万人を超える大所帯となり，しかも任期中に創立30周年を迎えるという大事な時期に会長の任に就いたということを考えますと，身の引き締まる思いであります．

しかし，ご経験豊富な両副会長をはじめ理事・役員の方々，また練達の事務局の方々さらには会員各位のご助力を得て，微力ながら本学会発展のため全力を尽くす所存ですので，何卒よろしくお願い申しあげます．

さて，皆さま方もご高承の通り，近年のコンピュータを中心とした情報処理技術の進歩には高度情報化社会の中核としてめざましいものがありますが，特に最近では，AI, RISC, ファジィ，ニューロなどの新技術，新アーキテクチャの台頭，情報システムのネットワーク化，グローバル化，ソフトウェア需要の巨大化，国際標準化気運の高まりに関連する諸問題など，ダイナミックな課題が出てきています．また，一方では，ワークステーション，パソコン，ワープロなどのOA機器の普及に伴う情報機器利用者層の専門家から広く一般の人々への急速な拡大がみられます．それだけに，本学会の果たす役割も極めて大きいといえます．しかし，本学会がこうした外部環境の変化にタイムリに対応した運営を図っていくため，我々に残された課題も数多くあります．

本誌をお借りして前会長からの引継ぎ事項も含め私なりの本学会運営に関するいくつかの課題を挙げ，皆さま方のご理解を賜わりたいと思います．

その第1は，本学会のベースとなる会員数の拡大です．現有3万人の絶対数のさらなる拡大も重要ですが，現在の会員構成が少数の企業偏重という傾向にありますので，今後はソフトハウス，ユーザの情報処理技術者の方などより広い範囲から多くの会員を迎えることが望まれます．

第2は，学会誌の充実と研究会の活性化です．学会誌については，昨年度そのあり方の検討委員会が設置され改善策が鋭意検討されています．3万人という多勢の会員のニーズに対応した内容にしていくということは，難しいことだと思いますが，読みやすさの向上などの工夫も重要です．また，研究会についても，その活性化を検討する委員会が設けられています．今年度に新設された人文科学とコンピュータの研究会などにみられるように，これからは学際的なテーマがどんどん出てくるものと思われますので，他の学会との活発な交流も大切です．

第3は，30周年記念事業の推進です．これは，当面の大きな課題です．多岐にわたる委員会で準備が進められていますが，行事を盛りあげていくためには，できる限り多くの会員の参画が不可欠です．

第4は，国際活動の推進です．最近，産業界や学界においてもいろいろな面で国際化が求められています．本学会も例外ではありませんが，今後は，欧米以外のたとえば中国，韓国，東南アジアなどの近隣諸国との交流の促進も重要です．また，情報処理分野における国際的な標準化活動も活発化してきていますので，本学会の情報規格調査会の業務の意義もますます大きくなってくるものと考えます．

このほかにも重要な課題は多々あると思います．また，これらの課題に取り組んでおられる各委員会の役員の方々のご苦労には並々ならぬものがあります．しかし，いずれの課題の実現も，会員の皆さま方のご協力なくしてはありえません．

本学会のより一層の飛躍のため，皆さま方の絶大なるご支援，ご指導を重ねてお願い申しあげます．

（平成元年5月8日）

† 本会会長　(株)日立製作所